

デイトケアにおける思春期症例の通所状況

小林紗香 後藤幸枝 神廣憲記

【はじめに】

当院デイトケア（以下、DNC）では、思春期患者向けのプログラムを実施しており、不登校の思春期患者を中心に体験者や通所者が増加している。しかし、その中には通所を継続できた例（以下、継続例）もあれば通所を中断した例（以下、中断例）もみられたため、通所継続の可否を左右する要因には何があるのか疑問に感じた。不登校事例における将来の社会的自立に向けた支援は文部科学省でも重要な視点として挙げている。当院 DNC に通所継続することで社会性を育む機会や教科学習の機会を得られ、社会的自立の一助となることが期待される。本研究では要因を整理する準備として、DNC に通所する思春期患者の基礎データを収集することを研究の目的とする。

【方法】

対象者は令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月の期間に DNC 体験および通所した思春期症例（11 例）とし、後方視的な診療録調査を行った。調査項目は性別、通所開始時年齢、診断名、通所目的の有無、登校状況、中断の有無、利用回数、在籍期間、両親との同居の有無の 9 項目を抽出し、データを整理した。中断については 1 か月以上通所がないことと定義した。なお、受験やアルバイトなどの社会的理由や新型コロナウイルス感染対策といった時事的な理由がある症例は中断とはみなさない。

【結果】

継続例は 6 例（以下、継続群）、中断例は 5 例（以下、中断群）であった。診断名は継続群が中等度うつ病エピソード 2 例、双極性障害 1 例、統合失調症 1 例、適応障害 1 例、自閉症 1 例、中断群が学校恐怖症 2 例、習慣および衝動の障害 1 例、醜形恐怖症 1 例、双極性障害 1 例であった。その他の調査結果については表に示す。

| | 男女比 | 平均年齢 (歳) | 目的あり (%) | 不登校 (%) | 平均利用 回数 (回) | 平均在籍 日数 (日) | 単親・両親 不在 (%) |
|-----|-------|-------------|-------------|------------|----------------|----------------|-----------------|
| 継続群 | 3 : 3 | 16.0 | 100.0 | 33.3 | 51.0 | 304.8 | 66.6 |
| 中断群 | 3 : 2 | 14.6 | 80.0 | 80.0 | 13.2 | 224.0 | 80.0 |

【考察】

調査の結果、対象者は様々な精神疾患を有し、不登校が 54.5%、単親または両親と同居していない患者が 72.7%を占めた。不登校は集団参加の機会が少ないため、特に導入期にはプログラム参加ではなく個別対応が必要だった可能性がある。また、文部科学省の調査では、ひとり親家庭が子育ての悩みや不安を感じやすいことが明らかとなっている。そのため、不安や悩みについてより丁寧に取り上げた上で親子への介入や支援をしていきたいと考える。本研究では、通所継続の要因となり得る項目を全て調査できていない可能性も考えられる点が今後の課題である。